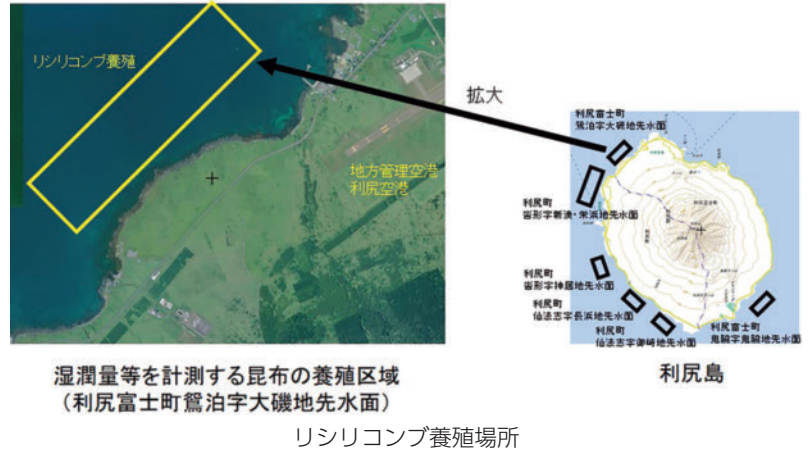


リシリコンブの養殖漁場におけるブルーカーボン生態系によるCO₂ 吸収量の調査

北海道開発局 稚内開発建設部 稚内港湾事務所

■調査の背景

北海道ではコンブの生産が盛んであり、北海道全域で年間約12400tのコンブを生産しています(令和3年)。近年関心を高めているカーボンニュートラルに向けた取組の1つにブルーカーボン生態系の造成・保全があり、最近では、釧路港やえりも町の漁場等で天然コンブ等を対象としたブルーカーボン生態系に関する調査・研究が行われています。その一方で、養殖コンブを用いた調査例は知られていません。そこで、北海道開発局は利尻富士町、利尻町および利尻漁業協同組合と連携し、リシリコン



湿潤量等を計測する昆布の養殖区域
(利尻富士町鴛泊字大磯地先水面)

リシリコンブ養殖場所

ブ養殖漁場におけるブルーカーボン生態系によるCO₂ 吸収量の調査を行いました。

■コンブ漁業の現状

地球温暖化等を要因とした海水温の上昇により近年、利尻島沿岸域において、暖流系のブリ等の来遊や、高水温に適応するキタムラサキウニが浅海域まで生息範囲を広げ、磯焼けが深刻化しています。本沿岸域では、リシリコンブの安定的な生産を確保するため、天然コンブ漁だけではなく養殖にも取り組んでいます。このリシリコンブの養殖は、浅海域の環境回復にも繋がると考えられています。

リシリコンブの養殖工程は次の通りとなっています。1年目は母藻を確保し付着水槽の遊走子を確認後、養殖ロープを水槽に静置しその後沖だし種コンブの養成を約1年間行います。その後、冬期に種コンブを陸

サイクル	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1年目	種苗(種コンブ)養成										母藻(2年生コンブ)確保	採苗・沖だし
2年目(製品用)	本養成(成コンブ)	雑草駆除	引揚げ・乾燥	製品作り・検査・出荷								
2年目(母藻用)	(一部分、母藻用)										母藻(2年生コンブ)確保	

リシリコンブの養殖工程

揚げ・選定の上、成コンブ養成用のロープに根縛り・巻き付けを行います。2年目のロープ等に付着する雑海藻を除去し、成コンブの実入りを管理し6月に引き揚げ乾燥を開始し、9月頃養殖コンブは出荷されます。

■調査全体の予定および今回の調査結果

本調査では、利尻富士町鴛泊字大磯地先水面において養殖されたリシリコンブを対象とし、5名の漁業者の方々に協力いただき、各漁業者が養殖したリシリコンブについて、調査を行いました。

漁業者の方々が収穫した干場に並べる前のコンブを6株分供試いただきました。そしてその湿重量や葉の

長さ、養殖コンブが着生している6株分の養殖ロープ長の測定を行い、調査終了後に干場に並べました。

本調査の結果については現在、整理中であり、年内を目途に養殖コンブによるCO₂ 吸収量を推計する予定です。また、本調査の結果を基に、利尻富士町鴛泊字大磯地先水面だけでなく利尻島全域の養殖コンブによるCO₂ 吸収量の算出も行おうと考えています。



リシリコンブの生育状況



昆布干場の様子と利尻山

今後の予定

リシリコンブの養殖は安定的なコンブの生産を確保するためだけでなく、CO₂吸収による気候変動緩和の観点からも重要であると考えられます。

そのブルーカーボン生態系の創出、回復、維持等のため、ジャパンプルーエコノミー技術研究組合が創設したブルーカーボンクレジット、「Jブルークレジット」を活用した取組に地域の関心が高いことから、その適応について地域と調整して参ります。

また、現在利尻富士町では、令和5年度中に地球温暖化対策実行計画を策定する予定であり、CO₂吸収源対策の一環として本取組の調査結果を活用することを検討しています。

本調査は養殖コンブの採取時にロープ延長や湿重量などを計測することで、ブルーカーボン生態系によるCO₂吸収量の推計を試みています。この簡便かつ安価なこの方法は他地域にも広く活用していくことが可能であると考えられます。

令和5年度 港湾空港関係功労者表彰及び海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰

北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課

北海道開発局では、様々な団体と連携した港湾空港整備事業の効果的な推進を目的として、「北海道開発局港湾空港関係功労者表彰」及び「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」を実施しています。

今年度の「港湾空港関係功労者表彰」は、前羽幌町長の駒井久晃氏(故人)及び三協建設(株)の堀松秀樹社長に、また、「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」は、Canal Clean Team(カナル・クリーン・チーム)(株)西村組及び藤建設(株)に決定し、7月25日(火)表彰式が執り行われました。

表彰式では、北海道開発局鈴木港湾空港部長から感謝状、表彰状が授与され、その功績を讃えるとともに、改めて感謝の意を表する挨拶がありました。

各受賞者の皆様からは、港湾にまつわる故人との思い出、企業活動や清掃活動に対する熱い思いなどが語

られるとともに関係者の方々に対する謝辞等が述べられました。



表彰を受賞された方々
(前列右から堀松秀樹様、駒井千晶様(駒井久晃様代理)、鈴木港湾空港部長、Canal Clean Team様、(株)西村組様、藤建設(株)様)